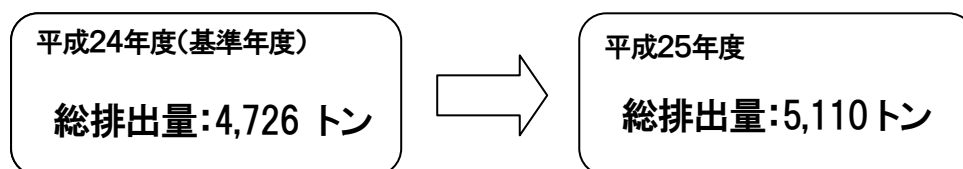


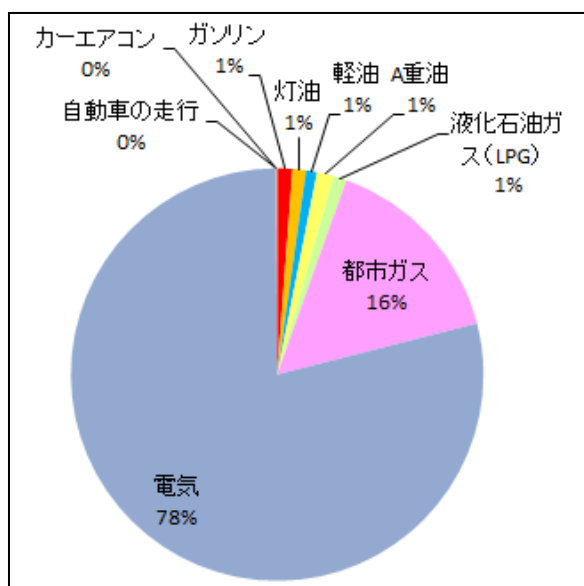
# 平成25年度温室効果ガス排出量まとめ

## 1. 温室効果ガス排出量について

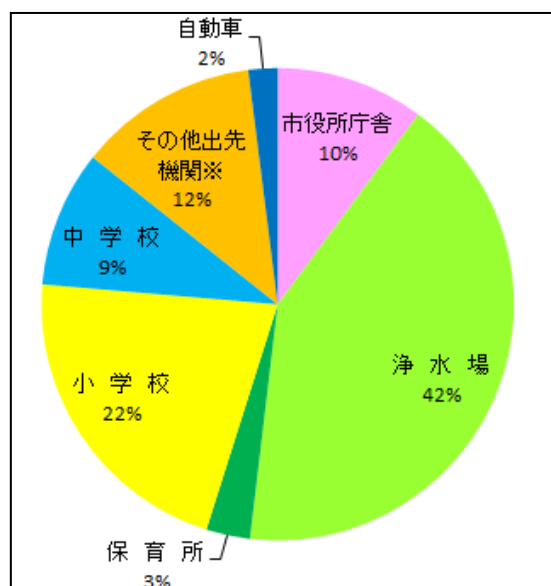


※平成24年度比 8.1%増

### 発生源別二酸化炭素排出割合



### 施設別二酸化炭素排出割合



## 2. 森林整備によるCO<sub>2</sub>吸収量

🌳 森林整備面積 : 12.4 ha

🌳 CO<sub>2</sub>吸収量 : 87.2 t

H21 H22 H23 H24 H25  
(45.7t + 59.2t + 157.0t + 108.2t + 65.7t) ÷ 5年 = 87.2t

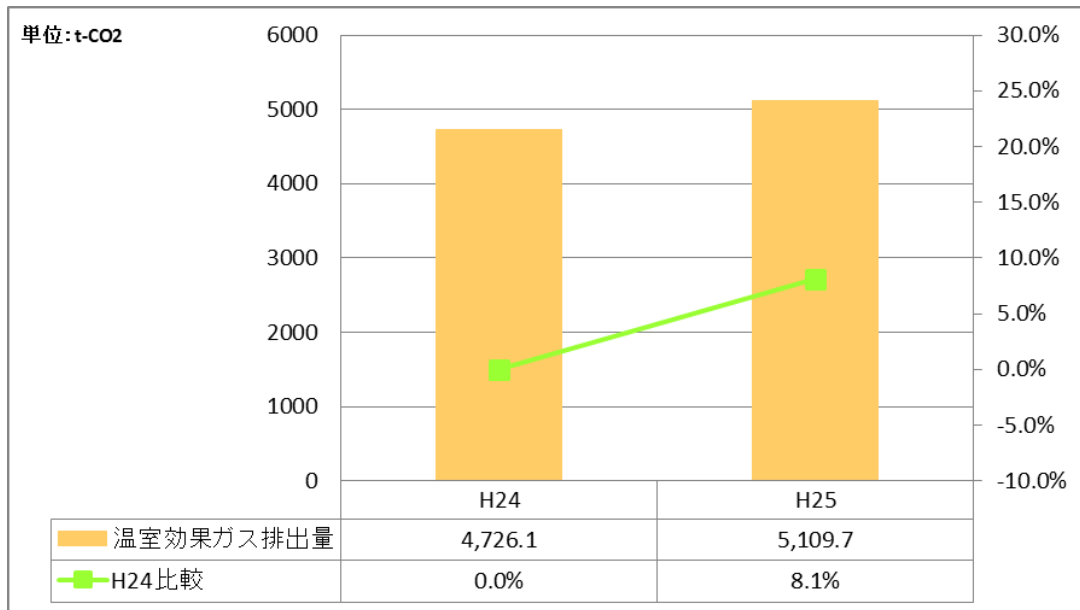
H24年度比  
6.3%増加

全体(総排出量:5,110t-CO<sub>2</sub>吸収量:87t) = 5,023t

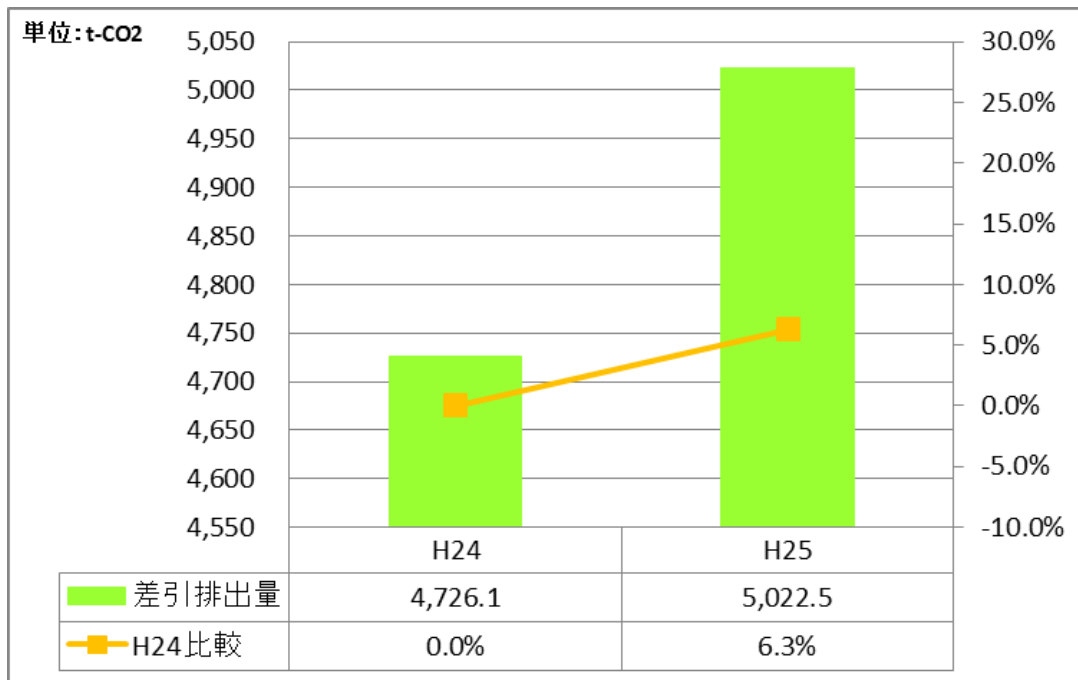


《推移》

① 温室効果ガス排出量推移】



② 【温室効果ガス排出量（森林吸収量含む）推移】



①のグラフは、基準年である平成24年度と計画の対象年度である平成25年度を比較したグラフです。②のグラフは、①の排出量から森林吸収量を差し引いたグラフです。

平成25年度は基準年度と比べて8.1%の増加、森林吸収量を含めても6.3%の増加となりました。

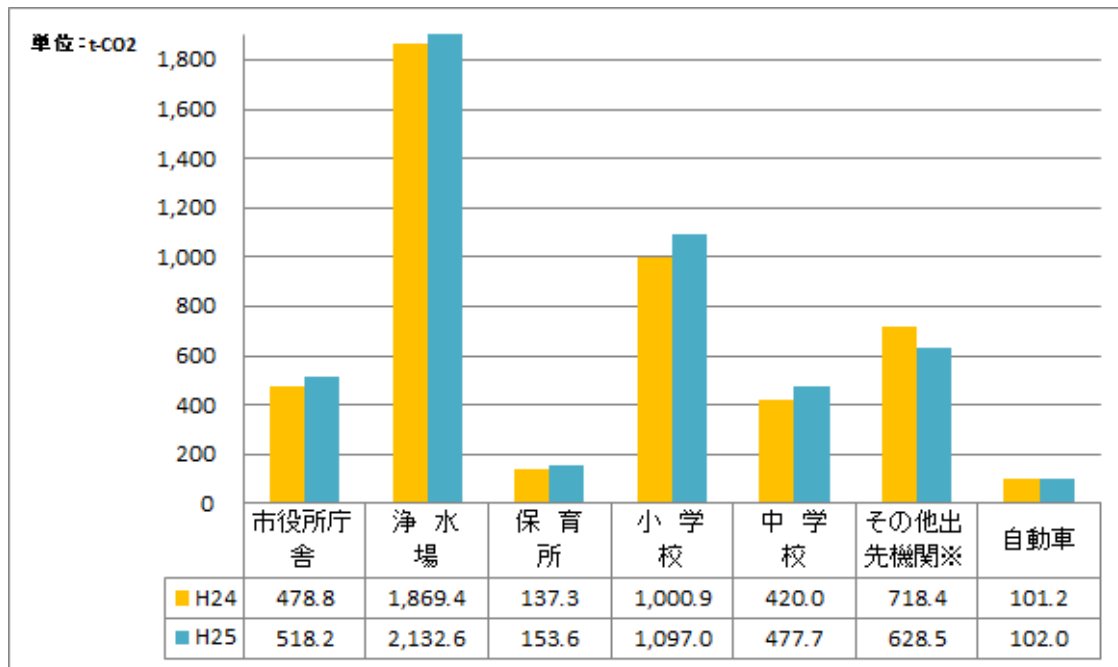
温室効果ガス排出量が増加した背景としては、夏期の猛暑や厳冬の影響により冷暖房機器の使用が増え、保育所や小中学校をはじめ、人の集まる施設での電気とガスの使用量が増加したことが挙げられます。

また、温室効果ガスの発生源のうち全体の約8割を占める電気の使用量については、前年度比4.1%の削減が図られたものの、温室効果ガスの排出量では同比約10%の増加となりました。

このことが示すとおり、温室効果ガス排出量が増加した最も大きな要因は、排出量を算定する際に用いる電気の排出係数の値の上昇です。電気の排出係数は、平成23年の東日本大震災の発生以降、原子力発電所の稼働停止が継続し、代替する火力発電量の大幅な増加の影響で以後上昇を続けています。

平成25年度は、この排出係数が前年度に比べて約15%上昇したことから、実際の電気使用量が削減できてその効果が表れにくい結果となりました。

### ③ 【施設別の温室効果ガス排出量推移】



※中央公民館、図書館、北開田会館、北開田児童館、老人福祉センター、保健センター、多世代交流ふれあいセンター

③のグラフは、基準年である平成24年度と計画の対象年度である平成25年度の施設別の温室効果ガス排出量の推移を表したグラフです。

前述の理由から「その他出先機関」を除いた各施設において、温室効果ガス排出量が増加しています。

「その他出先機関」で温室効果ガス排出量が減少した要因としては、中央公民館の電気使用量が平成24年度に比べて大きく減少したことが挙げられます。平成24年度には節電対策の一環として、中央公民館がおでかけスポットとして活用されたことから、夏期のエアコン使用が急激に増加し、例年に比べて電気使用量が大幅に増加した背景がありました。